

## 第10回 鶴川西地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事録

開催日時	2022年11月22日（火） 13:32～14:44	
開催場所	町田市立鶴川第四小学校 1階ランチルーム（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	豊田範子、杉山由香子、平城聖子、竹村礼子、田中昭光、大隅明、仲村清彦、浅沼秀作、◎鯨坂映子、○悴田隆良 （◎会長 ○副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、教育センター
傍聴者	0名	

### 議事内容（敬称略）

#### 1 第9回基本計画検討会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1 説明）

#### 2 学校統合にかかる保護者組織・地域協働活動について

新たな学校推進課 （資料2-1 説明）

指導課 （資料2-2 説明）

会長 この内容について不明点や質問、ご意見などあれば挙手をお願いします。

委員 P T Aの件で、昭和55年に鶴川第一小と鶴川第二小から分かれて、大蔵小ができた時に、鶴川第一小には大蔵小ができる前にP T A設立準備委員会ができていた。そして、大蔵小ができてすぐにP T Aが発足した。P T A準備委員会の長だった方が初代のP T A会長になった。そのとき、すぐにできたのは良かったが、大蔵小の教員から不満が出た。P T Aであれば、教師側の意見も聞くべきだと。開校して4月に大蔵小の教員になって、すぐにP T Aが発足したので、教員の意見は何も聞いていないという不満が出た。

八王子市の小学校では、母体校がなかった。団地ができて、色々な人が入ってくるので、P T Aのことの「P」も最初はなかった。それで最初のとき、とにかく電話連絡網の先頭になる人を各クラスで、保護者会で決めておかないといけないということになり、話し合いで決めて、その後クラス代表者からP T Aを決めていった。だから、時間はかかった。P T A発足までに時間がかかったが、不都合なことがあったわけではない。

あと、ボランティアコーディネーターのことだが、経験してきた他市の学校では、ボランティアというものを使っていなかった。学校の授業や何かに協力してくれる方、例えばゲストティーチャーとかは、ボランティアではなくて必ず報酬を出した。

また、教育委員会が1校につき特色ある教育活動で1年間に50万円ずつ使っていてと予算をつけてくれた。その費用の中からゲストティーチャーのお金などを工面して、ゲストティーチャーを呼び、必要な物品を購入した。

町田市は、お金を使わないで、全部ボランティアでやっていこうという方針なのか。私は、ゲストティーチャーなどのように、立派な方を呼ぶのであれば、それなりの謝礼をきちっと払えるようなシステムにしていくべきと考えている。

指導課

ボランティアの方について、有償ボランティアの方もいれば、無償ボランティアの方もいる。各学校に「特色ある学校づくり予算」があり、それはボランティアのために使うという形式には捉われず、ゲストティーチャーを呼んだりすることも可能。各学校で均等に、そのような授業ができるように分配している。

ボランティアコーディネーターは立場上、ボランティアという形になっており、有償ボランティアで行っている。1日最大3時間で上限の金額が決まっている。ボランティア予算については、各学校、いろいろ不足しているなどの声を聞くが、年々少しずつではあるが、増やしてきているところ。

今後も、地域学校協働活動を盛んにするために、教育委員会としても重要なことであると考えているので、予算を増やしていけるように努める。

委員

高校の場合には「都立高校」と「私立高校」の2つが競争し合う形で、昔は公立学校に入る生徒の学力が高かった。それに伴い大学への進学者も多かった。そうになると、私立と競う意味ではないが、公立学校でPTAの会費以外に「進路指導費」や、いろいろな名目でお金をもらい、学校自身でいろいろな活動に使った。特に現職の先生は奉仕活動で相当汗を流すため、その活動を支えるため、資料代などの意味合いで、必要な経費を出した。

ところが、時代が変わり、公立学校で月謝以外に費用負担をするのはおかしいとなり、東京都の行政指導があり、それができなくなった途端、私立と教育活動の差が出てしまった。特に最近では、部活動がわかりやすい。

というようなことを考えると、今回答したように、市で、ある程度、学校の活動を活発化するために、それを支える支援に対して予算化し、学校に任せる方法があっても良いと思う。もちろん、後で監査する必要はある。無駄遣いをしたりする場合もあるので、ある程度の縛りを設け、それぞれの学校で特色ある活動を支えるために、金銭的な支援がない限り、うまくいかないと思う。それを今の世の中では「ボランティア」という言葉で逃げている。ボランティアなので、有償と無償がある。ただし、学校によって、ある程度必要でも人数が確保できないのが都の現状。

そういうことを考えると、学校の経営、その学校で特色ある活動、について、ボランティアではなく、先生方の活動まで含めて支援するようなことをぜひ行政のほうで考えてもらいたい。そういうことができれば、町田市では教育に非常に力を入れているということが世の中に伝わる。

委員

地域の教育力を活用するために、特色ある教育活動の事例として、1学年の生徒数、100人いたら100個、鉢植えを買った。2年生になると、ナスやミニトマトやブロッコリーを育てる。その時に1年生のとき購入したアサガオの植木鉢でやると育たない。

私は、がっかりしたのだが、鶴川第四小2年生の保護者がブロッコリーの植木鉢

を家に持って帰り育てているが、ピー玉ぐらいのブロッコリーしか育てていない。自分が育てたときに、子どもの顔ぐらいのブロッコリーに育てた経験からは少し寂しい。みんな1人1鉢で、ゲストティーチャーも呼び、肥料や土のつくり方や混ぜ方、全部やった。

ある学校では運動会でエイサーを踊る。太鼓を全員が持っているから。特色ある教育活動で購入している。100個の本物の太鼓をそろえている。市の財政によるが、お金の使い方次第でいい教育活動ができる

会長

新たな学校の保護者の組織とか活動内容、新たな学校の地域協働については、統合3年前、来年から始まる。それから統合の前々年度6月までであれば、2024年であと2年後に迫ってきていることが分かるが、それぞれの学校の実情に合わせて準備をしていき、皆でつくり上げていけるような方法でやっていきたい。

委員

鶴川第三小では、PTA役員のくじ引きで負けると転校するという親が何人かいると聞いた。各クラスから2名ずつPTA役員候補を選ぶ。決まらなくとくじ引き。その人たちが集まって話合いでPTA会長を決める。そんな話を3年ぐらい前に聞いた。真光寺中のPTA会長になった方も、くじで負けたとやっている。

もう一つだけ。鶴川第四小は、児童数が一番多いときに1,560人だった。家庭数で言うと1,100くらいあった。今、家庭数は400くらいで、3分の1になっている。鶴川第四小の児童数が一番多かった頃の学童保育へ入る子どもは学年の1割だった。今は比率が全然違うのに、その頃一番多い時、ほとんどが専業主婦だった頃につくったPTAのシステム。これだけ変わってきたら、実情に合った活動をして、そういう組織にしていくことを考えていかなければいけない。

だから、来年度からそのことを考え、統合に向けてというよりも、時代の変化に、実情に合わせて、考えていくべきだと思う。

委員

鶴川第三小と鶴川第四小、鶴川第三小と鶴川第二小でそれぞれ保護者同士、PTA同士で話しを進めている。時代の流れとともに変えていかなければならず、5年前に比べても、大幅に変わった。自分から立候補するタイプだったが、書記の任務に就いていた時代はとても大変なPTAだった。この5年間で、皆の意識も全然違い、学校の意識も変わってきている。

課題としては、学校が何をどのくらい求めているのかを理解すること。それと、保護者が、PTAというものが本当に必要かというところまで疑問視してしまっているところ。本当は必要だということ伝えていくこと。それと地域との連携の際、どこまでPTAに携わっている保護者が地域に貢献をしなければいけないのか。1年で交代していってしまうPTAとしては、長くから続いている地域の団体に初めて入っていくとき、「これはノーと言ってはいけないんじゃないか」とか、「これを続けていかない」というプレッシャーなどがあり、悪い慣習が続いてきていて、PTAは嫌なもの、楽しくないというようなものにつながっていると思う。

なので、やはり学校にPTAがある理由は、保護者と学校、そして子どもと地域の4者でどういう活動にしていくかを、PTA同士も話すが、学校にもPTAに何を

望むのかを聞きたいと思っている。

また、資料2-2だが、学校運営協議会に携わる人の最低要件はあるのか。こういう方だと良いみたいなのがあるのか。例えば高校生では駄目なのか、卒業生では駄目なのか。要件があるのか。あと、ボランティアコーディネーターも同様に。どういう方になっているのが理想的なのか、その辺の実態がよく分からない。

指導課

学校運営協議会委員人数について、指導課では7名以下と定めている。また、必ずメンバーの構成員の中に入れていただきたい方をリーフレット等で学校に伝えており、1人目が地域住民、2人目が保護者代表、3人目が小学校であれば新まちともの運営協議会関係者、中学校であれば学校支援ボランティア、4人目としてボランティアコーディネーターを入れてもらうこととしている。5人目以降については、学識経験者等、あとは地域や学校により差があるので、7名以下で構成を依頼することで決定している。特に年齢要件の規定はない。

続いて、ボランティアコーディネーターについて、元PTAの役員がやられている場合が構成の委員の中では多いと感じている。それ以外だと、保護者、町内会自治会の役員、民生児童委員、元教員などがボランティアコーディネーターとして現在携わっている。

### 3 学校施設需要調査の結果報告について

新たな学校推進課（資料3-1～3-2 説明）

### 4 鶴川西地区新たな学校の施設整備コンセプト（案）について

新たな学校推進課（資料4-1 説明）

委託業者（資料4-2～4-3 説明）

委員

資料4-1 学校建設スケジュールを見て、2023年度から新校舎の設計に入ることになっている。建物のことが書かれている。ところが、鶴川三丁目の学校周辺に住んでいる人たちにとっては、一番の関心事は校舎ではなく学校の周辺のこと。

学校の周辺のことについてはほとんど話し合われていないので、話し合う時間を取ってほしい。例えば、鶴川第三小の正門のところと鶴川第四小の正門のところ。鶴川第四小には、15センチの階段が19段あり、年寄りや登れない。鶴川第三小はスロープがある。選挙などの時に、車椅子の人でも膝が全然上がらない人でも足をすって行ける。鶴川第四小は行けない。年寄りや登れない。それで、上がれるとしたら南門はスロープがあるが、普段は使わないので正門で上がれるようにしてほしい。

あと、鶴川第三小は車道と歩道が分かれている。斜面に電柱がある。鶴川第四小の正門のところは車道と歩道が一緒。白い線が引いてあり、白い線の中を子どもが歩く。しかも、そこに電柱が立っている。このようなことから、地域は、鶴川第四小の斜面のところを少し後ろにバックしてでも、一段高い歩道を造り、電柱はその斜面に造ってほしいと要望したい。

それから、スクールゾーンについても要望が出ている。例えば鶴川第四小の角の

ところに商店があり、そこから鶴川四丁目に向かうと突き当たりまでスクールゾーン。商店から正門の部分はスクールゾーンではない。校庭の南東側でスクールゾーンが切れ、鶴川三丁目のところはスクールゾーンではなくなる。なぜ鶴川三丁目はスクールゾーンにしてないのか。もう少し延長して欲しい。これは何年も前に鶴川第四小のPTAにも検討して欲しいと伝えたが、鶴川第四小のPTAとしては、PTAではなく、郊外安全生活の担当だと。PTAに言われても困ると、やってくれない。そのまま役員が総入れ替えとなり、引き継がない。

最後に、つい1週間前にケヤキを2本剪定していた。地域としては大変助かっている。この時期になると、鶴川第四小の高木の落ち葉で毎日落ち葉掃きをしている。庭なら良いが、2階のベランダに溜まったり、屋根の雨どいに落ち葉が詰まる。新しい学校になるときは、高木ではなく、フェンスの高さぐらいの木の種類にしてほしい。このような話し合いをしたい。建物のことについてはもう結構。

会長

スロープになっていない点、南門が使えたらもっといい、スクールゾーンについて、改善できる点がたくさんあると思うので、記録にしっかり残して、校舎ができる前に考慮し、設計して欲しいと思う。

## 5 鶴川西地区新たな学校づくり基本計画検討会報告書（案）について

新たな学校推進課（資料5-1～5-2 説明）

委員

鶴川東地区と並行で鶴川西地区は開催しているが、鶴川東地区と鶴川西地区で、鶴川東地区は問題ないと思っている。バスで通学する児童もほとんどいないし、徒歩15分ぐらいで来られる場所だから気にしていない。

何日か前に通学区域緩和制度を申し込んだ人が何人いるか、町田市ホームページに出ていたのので、確認した。そうしたら、鶴川第二小が一番多かった。鶴川第二小の学区域ではない場所から、鶴川第二小へ入りたいというのが16人、町田市の学校の中で一番。毎年のように鶴川第二小が一番になる。鶴川第三小はほかの学区から来る児童が5人。鶴川第四小はゼロ。毎年のようにゼロ。真光寺中もゼロ。

何年か前に鶴川第二小が多いので、学務課に電話で質問したことがある。恐らく鶴川第三小の学区から鶴川第二小へ希望すると推測するが、鶴川第三小の住所で言えばどの辺かと聞いたら、個人情報に関わるので教えられないと回答された。鶴川一丁目の町内会長と話しをしたときに、鶴川第三小の学区だが、鶴川第三小へ入学する子はほとんどいないと言っていた。みんな鶴川第二小だと言う。

鶴川東地区は実質的に鶴川一丁目や能ヶ谷三丁目や鶴川第三小の学区から鶴川第二小の学区に移ることになっているが、既に子どもたちは実際に鶴川第三小に通ってきておらず、鶴川第二小へ通っている。だから、2026年を持たずに、統合始まっている。それに比べれば、鶴川第四小に鶴川二丁目に住んでいる子どもが来ることになるので、こちらの鶴川西地区の検討会のほうが検討しなければいけないことが多い。それを同じペースでやっていて、鶴川西地区はまだまだ検討することがあったのに、話し合いが足りなかったというようなことにならないか。心配なことはそ

のあたり。

鶴川東地区なんて難しくないだろうと思っている。極端だが、鶴川東地区は学校名も鶴川第二小のままで、校歌も鶴川第二小の校歌のままで問題ない。既に鶴川一丁目だとか能ヶ谷三丁目の子どもたちはみんな鶴川第二小へ行っているので、鶴川東地区は何も検討することなんかはないのではないかと思っている。

委員 基本的なことを聞きたい。今の鶴川第四小でも良いが、避難施設を開設する際の流れについて鶴川第四小はどうなってるか。たしか震度6強だと開設するなどを聞いたことがある。

新たな学校推進課 大きな地震が発生すると、市職員が避難施設を開設するために参集する仕組みはある。

委員 避難施設開設の訓練をコロナが始まるまで毎年1回ずつ行ってきた。鶴川第四小でもやっていた。鶴川第四小は、鶴川五丁目や鶴川三丁目、鶴川四丁目に住んでいる方が鶴川第四小へ来ることになっている。もし何かあったとき、地域の人が集まったときに誰が仕切るのかということが決まっていなくて駄目なので、各町内会の長で集まり、組織をつくっておこうということで、毎年10月ぐらいに、鶴川第四小の運動会が終わった後にやっていた。

コロナが始まってから、たくさん集まることが困難な状況となったので、まだやっていないが。そして、最初にこの場所に市の職員で近くに住んでいる人が来て、避難所開設することになっている。

## 7 第11回基本計画検討会の開催概要

新たな学校推進課 次回、第11回基本計画検討会の開催は、12月19日月曜日9時30分から鶴川第三小学校の視聴覚室で行う。

会長 閉会あいさつ